

3 4 背後産業の国際競争力を支える名古屋港・三河港・衣浦港の整備推進について

(財務省、国土交通省)

【内容】

- (1) 名古屋港について、「国際産業ハブ港」の実現に向け必要な施設整備を確実に行うこと。特に、ものづくり中部の国際競争力を強化するため飛島ふ頭南側コンテナターミナルの更なる機能拡充と、アジア・中国物流に対応した耐震強化機能を有する鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの整備推進を図ること。
- (2) 安定的かつ安価に原料（穀物）を輸入し、付加価値を創造して全国配送する拠点港として、名古屋港を国際バルク戦略港湾に選定すること。
- (3) 三河港について、自動車輸出入等に対応する、蒲郡地区の岸壁（-11m）を始めとした多目的岸壁の整備を促進するとともに、特定重要港湾への昇格を図ること。
- (4) 衣浦港について、大規模地震への早急な対応を図るため、武豊北ふ頭地区の耐震岸壁（-10m）の整備を促進すること。

(背景)

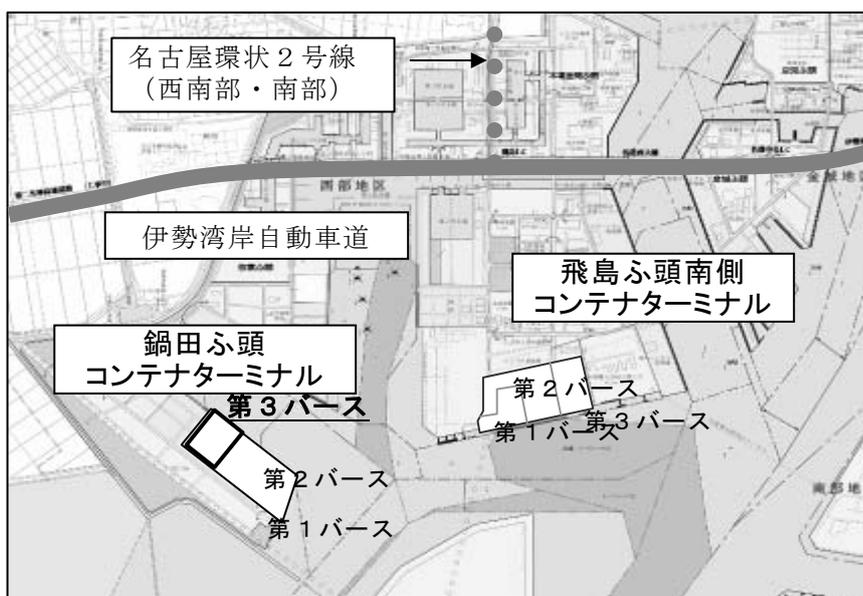
- 名古屋港は、原材料などのバルク貨物を輸入し、これを背後で製品・半製品化して、完成自動車やコンテナ貨物などとして輸出する、「バルク」と「コンテナ」、「輸入」と「輸出」が有機的に関連し、シナジー効果が発揮できる効率的な仕組みが構築された総合港湾であり、総取扱貨物量、貿易黒字額において日本一を誇るなど、モノづくり中部のみならず、我が国の経済を支え、牽引してきた。
- 日本がアジアをはじめ世界の成長を取り込むためには、世界とのゲートウェイとなる港湾の機能強化が不可欠である。名古屋港周辺は、国際競争力の高い製造業を中心とした産業集積があり、その産業集積のもとに構築された優れた物流ネットワークを有している。名古屋港においては、こうした強みを活かしながら、欧米を始め中国アジア生産拠点との強いつながりを持って事業展開しているモノづくり産業をはじめとする中部地域の産業を支え、中部地域を発着する輸出入貨物（コンテナ、バルク、完成自動車等）の物流円滑化など高質なサービスを提供する「国際産業ハブ港」の形成を目指している。
- コンテナの機能強化については、コンテナ貨物量の増加やコンテナ船の大型化に対応した港湾施設の整備、中国を始め経済成長の著しいアジア地域との物流に対応した港湾施設の早期整備が必要である。また、大規模地震に備えた耐震強化岸壁の整備も急務となっている。
- 国は、我が国の産業及び国民生活に欠かせない物資である資源、エネルギー、食料等の国際バルク貨物の安定的かつ安価な供給を支えるべく、大型船による一括大量輸送を可能とする港湾の「選択」と政策手段と投資の「集中」をする、国際バルク戦略港湾を選定することとし、平成22年6月に募集要項を発表し公募を開始した。

それを受け名古屋港は、公募対象品目のうち穀物（トウモロコシ）について、同年8月に国際バルク戦略港湾の選定に向けた計画書（目論見）を提出した。

- 三河港は、多くの外資系自動車企業が立地するなど、その機能と将来性が国際的にも評価されており、重点港湾（新規の直轄港湾整備事業の着手対象とする港湾）の選定、地域再生計画（国際自動車産業交流都市計画）の認定及びリサイクルポートの指定を受けるなど、我が国の経済活動を担う港湾としてますます重要性が増し、さらなる発展が期待されている。
- 衣浦港は、重点港湾にも選定される等、背後地域の物流・生産活動を支える重要港湾であるとともに、地域の防災拠点として重要な役割を果たしている。衣浦港の背後地域は、東海地震および東南海地震の地震対策強化地域に指定されており、切迫する大規模地震に備えた耐震強化岸壁の整備が急務となっている。

（ 参 考 ）

名古屋港



衣浦港

● 武豊北ふ頭地区において、震災時における緊急物資輸送拠点を確保するため、現在利用されている岸壁（-10m）の耐震化を図り、耐震強化岸壁を整備する。



三河港

● 三河港蒲郡地区において、近年の船舶大型化による岸壁水深及びバース長の不足を解消し、荷役の効率化、安全性の向上、港湾物流機能の強化を図るため、多目的国際ターミナル【岸壁(-11m)】を整備するものである。

